

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200941		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム パラソル 倉敷中庄		
所在地	倉敷市中庄2371-1		
自己評価作成日	平成28年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設2年目を迎えました。木造2階建ての昔懐かしい馴染んだ家を思わせる施設です。敷地内に、畑を耕し、フル回転で四季折々の野菜を、入居者の皆様と育て、食卓に並んでいます。料理も、私たちが調理させていただいており、入居者の方と一緒に料理させていただいたり、郷土料理を教えていただき召しあがられ懐かしく思い出され喜びを分かち合っております。皆様の残存機能を活かせる様に、それぞれの適性に合わせ共に、作業、運動、屋外活動を行っております。屋内活動としては、毎日の音楽体操、プロのピアニスト、シャンソン、職員による演芸、誕生日会。屋外活動としては、四季に応じた名所探訪、与島でランチと広大な景色を満喫。バーベキュー、地域の運動会、1階、2階の皆様と楽しさの共有、地域の皆様との交流を密に図らせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高速道やJRの沿線で近くにはスーパー、コンビニと利便性の良い場所にあり外観が親しみを感じる木造の施設です。屋内外に昭和初期の懐かしい物品が配置されており、回想法にも役立っています。家族などが訪問しやすい雰囲気づくりに努めており、又日々の状況にあわせて柔軟な対応を心掛けています。運営推進会議を活かしながらサービスの向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	oranntia 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの人生を過ごされた方々の経緯を、尊重し人生の先輩として尊敬の念を図りながら個々のニーズに沿った支援を行う事により、日々充実した生活の提供と、理念の周知を実施。ユニットでの介護理念を共有している。	経営理念の隣に各ユニットの「おもいやり」介護理念を掲示し、職員間で共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時(散歩・ドライブ等)に外部の方へ声掛けを行い会話に努めている。 地域開催の運動会等にも見学、参加。 民生委員の方も、度々 訪問下さる。	地域のスポーツフェスティバルの見学・ボランティアの訪問や中庄高齢者支援のサポートによる近所の方が参加して、認知症の勉強会開催等で地域と交流している。今後は町内会の活動にも参加予定とのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時、町内・地域・ご家族様へ状況報告により、認知症の情報を共有している。 当施設での認知症サポート講座を開催し、近隣の方と学びの場を作った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、町内会長、地域包括支援センター、介護保険課職員、ご家族様、他事業所職員の出席により、事業所の状況報告、地域・行政の動きを伺い、助言、感想、意見を頂き、向上へと繋げている。	地域の多職種の方も参加してもらい昔のことや地域のことなど教えてもらいながら、事業所の取り組み状況等を報告し、参加者の意見等をサービスの向上に活かしている(会議での提案で与島プラザへのランチドライブを実現した)。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の担当者の方へ、不明な点、判断できない事、改善に向けての相談をさせていただき、良き指針を頂き、事業運営が良き方向へと取組を行っている。	運営推進会議の折又、その都度不明な点や改善点を相談して協力関係を築く様取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間に行き来は自由で日中は、玄関の施錠する事無く行動の制限をなくしている。 安全面に配慮し離設前に共に散歩の提供。「待つて」言葉の拘束も注意している。	職員が介指定基準の禁止について具体的行為の理解に努め、自分に置き換えて「逆の立場だったら」を考え、「何故待つてもらうか」理解出来る言葉がけで拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	異常発見等が、発生した場合 周辺、身体観察を行い、原因究明。結果について職員へ報告。 対応不適切が生じた場合については、注意、指導を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用、現在、申請中の方がおられる中、ミーティング、カンファの機会に理解を深める様情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要説明事項、契約時理解を深めていただいているかを確認しながら、随時説明、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にお越しの時、電話等で近況報告、要望についても伺い、実施を行っている。職員からもご家族様へのコミュニケーションを深め、良好な関係作りの実施が行われている。毎月、新聞を発行、送付している。玄関にご意見BOXの設置をしている。	家族から気軽に声をかけてもらえるような雰囲気作りを心掛け、日常生活に関することなど話してもらっている。又、毎月パラソル通信を家族に送付し、ホームでの様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議での内容報告。ユニット会議の内容については、職員の現状改善、意見を主に開催し、問題解決、改善を共に行う事により、徹底が図られている。	職員個々のレターボックスを活用し意見等を提出してもらう機会を設けている。職員から出た声を取り上げ、現場の状況の把握に努め反映する様心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年2回実施。職員の評価を基に、今後の取り組み、役割担当等責任感を持たせる事により意識向上へ繋がり、希望休、家庭内での問題等を聞く機会を持ち、労働環境を整えるように行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への受講の機会を増やし、受講者は、施設内研修を行うことにより、責任感と自覚を持たせることにより、スキルアップを図っている。スキルに合わせた指導の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報交換等を実施出来ている。職員についても、他事業所の知人等とも交流を図り、反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と、面会させていただきコミュニケーションを図る事、表情・穏やかな時、不穏な時等の対応方法を行っている。 ご家族様の要望等も伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様との面会、ご家族様担当ケアマネジャーと生活の様子、困っている事等をしっかりと伺い不安を除けるように事前ヒアリングに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様に、生活状況を伺い必要と思われる環境を整える様に工夫している。現環境から違う環境へと変わるダメージを、最小限に留める様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活が始まり、状況把握困難が緩和した頃、共に作業、調理、外出等、日々にメリハリを持つことにより、信頼関係の構築を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の報告は必須であるが、行事等を伝え共に参加いただいたり、ご家族の時間を大切に継続いただける様、外出の提案を行い、双方の絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者、知人訪問時、ソファー等でゆっくりと過ごしていただける空間作り。 面会等については居室での時間の制限無く過ごしていただく。	友人、親戚、近所の方の訪問時にはゆっくりと話ができるような雰囲気作りに努めている。また状況によりドライブや外出時に馴染の場所に出かけたり、家族とデパートに出かける方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒の場作り、昔話等を話す機会を持ち職員も共感する事で会話を膨らます事が実施できている。畑、調理等も共に関わりを増やすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたご家族様も、度々訪問下さったり、電話による現状を伺うなど関係性を維持。場合によっては支援に対する相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔より行っていた事などを伺い、可能な限りそれを実施する事で充実感を得ていただく。状況的に、個別対応を必要とする場合は個別に外出の提供、居室での対応を実施している。	自立度も高く、面会の方も多いので、本人、家族から出来るだけ意向や希望を聞いて把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、支援の中に取り入れ、ご本人様の自信へと繋げる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自発的に、参加したいと思える環境づくり、日々の生活の中で、レクリエーションの提供により楽しみ、体力維持、心身状態の変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様への、報告、連絡、相談の実施。職員とご本人様の状況話し合い、それに基づき介護計画へ反映している。	医師、看護師と連携し、本人、家族や職員と話し合い、本人がよりよく生活するための介護計画の作成に取り組んでいる。	モニタリング又、カンファレンス等と家族の思いの把握に努め、これからも入居者がより良く暮らすための介護計画をチームで作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の充実を図り、職員間での情報共有。周知徹底事項については、申し送りノートに記載し、周知、改善について検討し実施計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況に応じ、職員、看護師、医師との連携を密に図り柔軟な対応を図る事に努めている。買物支援、病院受診等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者支援センター、民生委員、町内会長からの、地域の情報を伺い協力体制の確保により安心、安全な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やその他専門機関との連携を図り、状態の変化により往診時、緊急時は、電話連絡により指示を受け早期に対応している。 受診指示・希望時は柔軟な対応をしている。	入居前からのかかりつけ医への受診や協力医療機関の往診など適切な医療が受けられるように支援している。状態の変化又、薬の変更等家族に連絡する様取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関やその他専門機関との連携を図り、看護師より介護職員へ周知。 介護職員からの情報発信を行い、入居者様の健康維持を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常勤・非常勤の看護師への、報告により状況に応じ医療への報告、受診。対応方等の指示を受け、介護職員への周知により実施できている。日頃についても、看護師への報告の実施の徹底が行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方について、ご家族様、医療機関との話し合いにより柔軟な対応を行っている。 看護職員、介護職員への周知についても、その都度報告し、連携を図っている。	入居時に重度化した場合の対応に係る指針について話合っているが、状況に応じてその都度関係者と話し合いを行っている。夜勤職員採用時には終末期経験の可否の確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に直面した場合の対処法をマニュアルにし、定期的に社内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し年2回避難訓練の実施。消防との連携により、機器を使用した訓練。運営推進会議等、地域との連携についても情報共有を行っている。 マニュアルも更新している。	年2回消防との連携による避難訓練で入居者が安全に避難できる方法を確認している。地域と連携し情報の共有に努め、災害時の避難場所として事業所2階の利用を提案している。	今後も災害対策を継続され、入居者の安全、安心への支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、居室の訪室時ノック並びに声掛けを行っている。 入浴時、排泄時のプライバシー保護、接遇についての教育を行っている。	その人の様子や場面に合わせた声掛けを心掛け、優しい岡山弁を使いながらプライバシーを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、施設主導ではなく、ご本人様の状況に応じ対応を行っている。 食事の時間についてもご本人様の意思の尊重。外出等を希望される時、出来る限り実施に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある生活の提供は必須であるが、個々の、体調、心理の変化に目を配り、柔軟な体制で支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に洋服を選んで着ていただいたり、モーニングケア、入浴時の整容を実施している。定期的に訪問理美容による整髪も実施している。毛染め、パーマ等、ご本人の意思を尊重。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	禁止食は勿論の事であるが、苦手とする物については、栄養バランスを考え柔軟に対応している。調理、準備、片付けについても、それぞれ一緒に支援出来ている。	業者の献立(食材のみ配達)の手作り食や月に数回は入居者の希望等のお楽しみメニューや外食日があり、食事を楽しむことができる支援がされている。菜園で出来た野菜も利用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて、個別の食事摂取量、水分量を記入し、食事量、水分量の不足時など対応を的確にその都度、状況に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を行っている。 ご本人様へ声掛けによる自立した口腔ケアと、介助を要する方への清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表への記入により、パターンの把握。声掛け等により、失禁の減少を図り、トイレでの排泄を入居者様へ促している。	各ユニット半数位の方が自立されているが、排泄のパターンを把握して声かけ誘導等で自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、食物繊維の多い食べ物を提供している。日々、体操の実施、散歩、外出等により運動の実施に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの、ニーズに添える様に計画を立てて入浴している。時間帯についても、意思の尊重に努めている。	浴室と脱衣室はガスの即暖房になっている。入浴拒否の方も状況に応じて又、体調に合わせた個々の入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については、ご本人様の意思を尊重している。夜間については、不眠時は温かい飲み物等を提供し、安眠出来る様に、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方され、内服している薬について、職員へ薬情等を用い指示し、副作用、用法について理解を深め、症状の変化についても、報告対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様担当職員の情報を含め、それぞれの役割、嗜好に合わせメリハリのある日々を過ごしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々、行事等で観光地を訪れたり、外食に出掛ける事も実施している。定期としたい。天候良好時は、散歩等で緑、土、遊具等で自然とのふれあいをしている。	年間行事で外出、外食やドライブ等計画して実施している。家族の方の協力により定期的に墓参り、外出や買い物に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る入居者様は、ご家族様の協力も含め所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されておられる入居者様については、ご本人様の意思によりお話をされています。ご家族様からの手紙の受け渡しも行ってる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において、冷暖房にて室内温度管理、照明は、ライトコントロールにて時々に応じた明るさ、自然光を取り入れる工夫を実施。 浴室、脱衣室 温度差のない冷暖房により調整を実施している。	すぐ近くのJR,高速道の音が二重ガラスで遮っており、自然の光も温かく、開放感もあり居心地よく過ごせる工夫をしている。また一階にはソファ、二階には畳コーナーがありそれぞれで寛げる様配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、ソファ、畳、食卓兼集いの場として利用していただいている。 縁側・ベランダでくつろげる場所も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた家具、本、写真等持参いただき、ご本人様の馴染んだ物を居室に置くことにより、居心地の良い環境づくりを行っている。	居室にはTV、家具、好みの物や馴染みの物など又、自宅で使用していたベットや畳の上で布団使用等それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫してある(居室のドアからベットまではよけいなものを置かないよう動線を確保している)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて、転倒防止。廊下、トイレに手摺を設置し安全の確保。 トイレ等、時代に応じ「便所」水洗レバーの使い方等、分かりやすい表示に工夫している。		